

第8回審議会における主な意見等

1. 小委員会では中学校の通学区域を基準にして適正配置を検討した。平成22年度から中学校を機軸にいくつかの小学校を組み合わせた連携教育ブロックを形成した。学校が密集している板橋区役所周辺の地域、隣接校の距離が離れてしまっている赤塚・成増周辺の地域、中学校と小学校の通学区域が大きく異なっている前野の地域について検討していく必要があるとの意見の一致をみた。審議会ではこの三分野を検討していただきたい。
2. 小委員会では連携教育ブロックの一部をモデルケースとして検討した。小中連携という教育のソフト面と学校の適正配置、ハード面は一致していくのが理想だが、なかなか理想的にいきにくいという印象を持った。地域・ブロック固有の課題があるので、改善の方途が見えるような協議をしていただきたい。
3. 小中連携教育をしながら、その中学校に行けない小学生がいる。予想される弊害はあるのか。
4. 連携教育は就学前から義務教育の長いスパンで子どもたちを育んでいくために行っており、基本的に教育ビジョンで掲げている板橋区の目指す子ども像に向けて取り組んでいるので、内容に大きな違いはない。22年度から本格的に実施しているので検証は今後を待つことになる。
5. 中学校ブロックでの区切りのほうが地域センターの区切りよりはすっきりしているように思う。適正配置を検討する区域を、小学校の通学区域から組み立てることができるか検討が必要。そうした際には児童数の推移予測を見ながら仕分けていく必要がある。
 中学校区の区域についても学校選択制のあり方が絡んでくる。通学区域を重視するのか、特色のある教育を重視するのか政策的な判断が必要なのではないか。
 地域との関係が重要なので、中学校ブロックで区切った場合、地域の活動(町会、青健など)にどのような影響が出るか分析もしなければならない。地域センターや町会の区域を見直すことも視野に入れていかないと整理がつかないのではないかと。
6. 加賀中学校の通学区域で一角だけ別の小学校の通学区域になっているところがある。
7. 金沢小学校の定数の問題でやむを得ず切り替えた経緯がある。今後人口配分も変化していくので組み入れについての検討は可能。
8. 連携校23校については、小学校、中学校の連携教育について差がないのであれば連携校と通学区域の一致しない部分を気にしなくてもよいということか。地域の実態に応じた多少の内容の違いがあるという点、教育委員会、特に指導室は一致しない部分を直していかなければならないと考えているのか。
9. 連携教育については、それぞれの特色ある教育活動は尊重しつつ、板橋区の小中連携

で行ってほしい基本になる部分をこちらから提案し、それに小中の特色ある教育活動がまた進められている。連携している中学校に小学校の子どもたちが進まないということを 100%クリアすることは大変難しい状況である。

10. 連携教育については、固定的にとられるというのではなく、考え方や教育の理念、指導方針の中でその精神が生かされるかどうかということがよく言われる。
11. (連携教育ブロックの課題として) 中学校と小学校の組み合わせとして、学校数をみると、中学校一つに対し小学校が四つというものから、中学校一つに対し小学校一つというものもあり、こうした規模の違いについては検討の余地がある。
12. 北区の場合は審議会を開いて小中連携を学校ファミリーという形式をとっているが、先に中学校の適正配置を行っている。北区の中学校生徒数は板橋区のほぼ二分の一で適正配置をして 20 校から 12 校になった。この状況から、北区と同じ方法をとって解決できるかは疑問を感じている。
13. 事務局から出された 23 ブロックの資料から課題が提示されているので、現状を改善するための方法をモデルとして考えたい。
14. 個別具体的に検討する重要性もあると思うが、適正規模・適正配置を考えた場合、小学校に合わせたときの児童数の予測や取り込んだ際の影響や、中学校に合わせたときの影響など具体的な数のデータで検討する必要がある。
15. 一般化できる問題が出てこないか。シミュレーションをやることは大事だが、同時に、そういう場所、地域のどういう問題点が考えられるか。
16. 子どもの通学の視点からの区域の変更というのも考えられる。赤塚方面は中学校の再配置のことは出てきてしかるべきと思う。
17. 中学校の通学区域のありようについて、問題、課題を考えるとときの切り口として、小中の連携教育を考える必要があるだろう。それ以外の切り口の有り無しについても検討していく必要がある。
18. 次回については、小委員会で今回の意見を論点整理していただき、中学校の区域の検討を深めていきたい。
19. 学級数のキャパがないにもかかわらず抽選になった学校の選択理由はなにか。
20. 志村一中は友人関係が一番多く、上三中は教育活動、赤三中は通学距離が一番高い数になっている。小学校で学童クラブやあいキッズの実施状況については、全体の 37% が理由に挙げている。学童クラブの項目だけなので、あいキッズについては不明。
21. 事務局から大規模集合住宅建設に伴う志村六小の通学区域の一部変更について説明。